

慶應 SFC 学会 研究助成金
成果報告書
総合政策学部 4 年 中島彩夏

南アフリカタウンシップにおける幼児教育施設の社会的挑戦
～Vryground の 2 つのケアセンターの比較を通して

● 研究の目的

本研究は、南アフリカのタウンシップ内にある保育施設(ケアセンター)でのフィールドワークを通して、異なる社会文脈ごとにタウンシップの子どもが置かれている状況を調査し、幼児教育に与える影響を明らかにする。それらを踏まえ、タウンシップコミュニティの複雑性に対応した教育と開発の支援政策を提案する。

● 成果報告

10月31日～11月25日に南アフリカに渡航し、Vrygroundのタウンシップにある2つの保育施設(Grace educare, Little sunshine educare)にてフィールドワークを行なった。1～2週間目は、園児の観察と教員へのインタビューを行なった。また、Little sunshine educareでは、園長の協力を受け、3週間目に6名の保護者へのインタビューを行なった。インタビューの結果、外国人、南アフリカ人関係なく6名全ての保護者がLittle sunshine educareに対して、好意的であり、タウンシップ内では比較的高額である学費(月550ランド)にも納得していたことが分かった。また保護者は、保育施設における清潔感や教育の質の高さを重視しており、Little sunshine educareの清潔さや、教員の専門性に満足して子どもを通わせていることが分かった。また、南アフリカ人の保護者から外国人に対する不満や、外国人の保護者から南アフリカ人に対する不満は、grace educareでのフィールドワークのデータ(教員へのインタビューと保護者の観察)と比べて、非常に少なかった。しかしインタビューの結果とは反するように、Little sunshine educareの全ての教員は、保護者の経済的貢献に対して不満を持っていることが分かった。具体的には、ファンドレイジングとして行なっているイベントへの保護者の出席率が悪いこと、最小限のお金を払って、最大の利益を得ようとする保護者への態度の不満などの例が挙げられた。

保護者へのインタビューに使用した質問は以下の通りである。

- ① 出身国
- ② 年齢
- ③ 職業
- ④ いつVryground/Capricornに来たのか
- ⑤ なぜこのケアセンターを選んだのか

- ⑥ このケアセンターの好きなところ
- ⑦ このケアセンターの不満に思うところ
- ⑧ 月550Rの学費についてどう思うか
- ⑨ 南アフリカ人であれば、この地域の外国人についてどう思うか
外国人であれば、この地域のカラード、コサについてどう思うか

- 今後の予定

今回のフィールドワークの結果と、今までの過去のフィールドワークのデータをまとめて、2つの保育施設の類似性と相違性をもとに、Vryground のタウンシップにおける子どもが置かれている環境を明らかにする。現在は、これまでのフィールドワークで集めたノート一冊分(約3ヶ月分)のエピソードをテーマごとに分け、卒業論文の章の1つとして書き進めている。卒業論文を書き終えた後は、来年度3月に開催予定のSFC学会への参加、SFC ACADEMIC JOURNAL への研究ノートの応募を計画している。

研究を通して、Vryground の人々を取り囲む暴力的な環境や課題の認知を広め、Vryground のような不平等なコミュニティの中で、さらに脆弱な立場に置かれる移民と、移民の増加に複雑な感情を抱く南アフリカ人の関係性を分析していく。フィールドワークでのリアリティが詰まったエピソードを論文に活かし、コミュニティ内の教育の利益の偏りがある中、タウンシップにおいてどのような教育開発支援政策が求められるのかを考察する。

- 活動中の写真



- 謝辞

慶應 SFC 学会様のお力添えなくしては、今回の調査結果は得られませんでした。フィールドワークでの費用を援助していただいたこと、心より感謝申し上げます。